

第4編 天皇陛下巡幸および行事・催物・その他

第1章 天皇陛下巡幸および行事、催物その他

1. 天皇陛下巡幸

天皇陛下は大正11年11月摂政宮のとき本県に行啓されたことがある。このときには農事試験場へのご来臨はなかったが、「今秋東宮殿下行啓ニ付御料食用品御調達相成度及通達候也」と野菜、果物のほか牛肉、鶏肉、卵などご食料を農事試験場が依頼されて調達している。

戦後になって、陛下は“人間天皇”をご宣言、全国各地を巡幸されたが、徳島県へは昭和25年3月25日に高知県を経て海部郡穴喰町へお着きになり、桑野 町、小松島町、徳島市、鳴門市などの状況をご視察、28日風邪のため1日ご休養のあと翌29日午前10時半農事試験場へご到着になった。

試験場では中沢敏場長が、藍の栽培、スクモの製造法、阿波沢庵用大根、徳島晩稲1号など稲麦の奨励品種、イネカメムシ、ヤサイゾウムシなどの重要害虫、吉野川流域の土性など、各部で精魂をこめて準備した展覧品目を中心にご説明を申し上げた。そのあと陛下は本館裏に準備されたお手まき所で杉、黒松、イチョウの実のいったそれぞれの重箱から種子を取り出してお播きになり、つぎの奉迎地である名東第一中学校へ向かわれた。

2. 行事および催物

業務工程の記録をみると、農事試験場の参観者は、明治の頃から毎年3, 000～5, 000人を数えているが、農業祭や参観デーを催した記録は久しく見当たらない。これらの行事や催物が開催されるようになったのは昭和10年代に入ってからのものである。

(1) 全国優良農具実演覧展会農事試験場参観デー等

農事試験場では古くから種芸部の中に農具係において農用機具の研究を行い、優良農機具の考案、制作とその利用を図っていた。一方農機具の販売は逐年増加しつつあったが、未だ知識に乏しくその選定もままならない農家が少なくなかった。そこで農機具の知識を啓発するために、農事試験場では農林省と大日本農機具協会の後援を要り、昭和11年10月12～14日の3日間、農事試験場と隣接の徳島農業学校を会場に、全国優良農具実演覧展会を催した。開催に当たって大日本農機具協会徳島県支部を場内におき事務処理は顧問、総務、会計、警備、宣伝、接待、会場実演、付帯事業、余興の各係をおいてこれに当たった。

各種農機具の出品に対しては、全国農具製作者、販売業者および各都道府県と農事試験場に出品を勧誘、依頼する一方、開催宣伝のポスターを全国に配布した。出品機種とその数は農業用電動機、耕種用器具機械、収穫調整包装用機械、園芸用および病害虫防除用器具機械、養蚕、畜産用器具機械、肥料用器具機械、揚排水機、雑機具合計1, 386点にのぼった。なお農具実演展覧会と併わせて、肥料展覧会、農業薬剤展覧会および試験成績の展示も行われた。

この農具展覧会を契機として、その後毎年1～2回農事試験場参観日の計画を立てたが、不幸にして翌12年7月には日支事変が勃発し、また本場の改築、池 田、富岡両試験地の開設準備などで多忙であったため昭和12年には大規模な催しは行わず、水稲が見頃の10月15、16の両日に、(1)中晩稲の品種と試験事項の説明、(2)農事相談、(3)印刷物の配布、(4)農具の実演販売などを行っている。

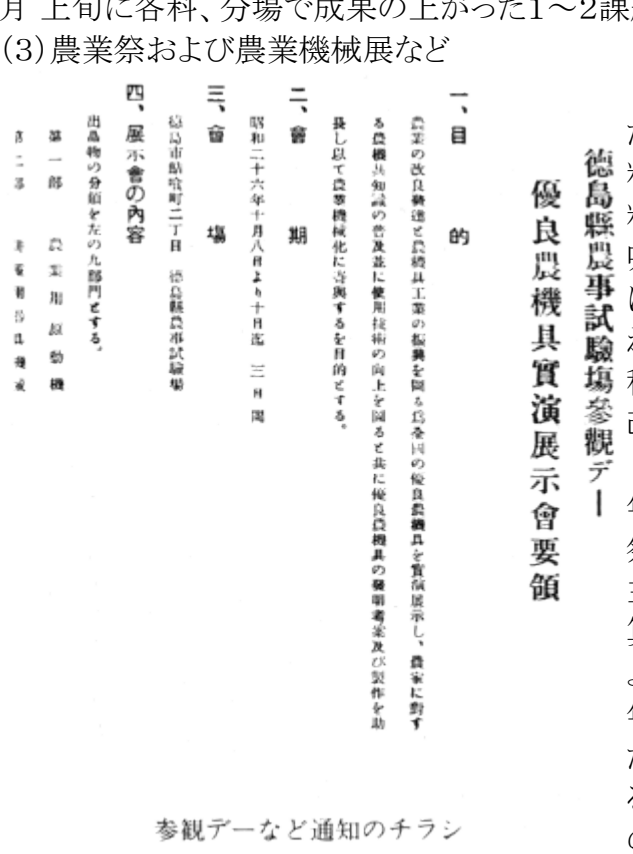
昭和13年度には本場の改築が成り、あくる14年4月13日には落成式が行われたが、このあと落成を記念して13、14日には優良農具展が開かれた。当時の新聞は「…この日舎屋裏庭には落成式を記念する優良農具展、舎内では農作物試験成績品展があり、14日も続開した」と報じている。しかし13日には生憎 豪雨があって、展覧会は一時中断されたかたちとなったが午後からは晴れ上り、14日には多数の参観者があった。

(2) 研究発表会

日支事変が長期化の様相を見せ、食糧の増産、確保が銃後の守りとして益々重要性を増しつつあった昭和15年秋(10月10、11日)、農事試験場では研究成果をいち早く農家に普及して増産を図るべく研究発表会を開いている。両日とも午後1時から講堂で開催した。当時の農会報は「…当日は県下より集り来る 受講者六、七百名の多きに達しさしもの講堂も満員の盛況にて多大の成果を収めて閉会した」と述べている。

その後入しく研究発表が行われた記録は見当たらないが、戦後も40年代後半に至って昭和47年および50年に農業機械展の協賛行事として農業関係試験研究機関の研究成果発表会を開催している。50年代に入ってから農事試験場の毎年の行事として四国地域の農業試験研究打合せ会議を前にした2月下旬～3月上旬に各科、分場で成果の上がった1～2課題ずつ合計12～15課題を選択発表している。

(3) 農業祭および農業機械展など



戦後農業は他の産業と同様に急速な進歩を遂げつつあった。農業技術ばかりでなく、その発展を支える農業機械や肥料、農薬など生産資材の改良、進歩も目覚ましく、これが食料増産や経営改善の掛軸とも相俟って、新しい農業知識の吸収に農家はきわめて意欲的であった。こうした事情を背景に、戦後は各県の農業試験場とも競って農業祭を開催し、これを通して日進月歩の新しい農業技術を紹介すると共に、各種の農業機械や肥料、農薬などを展示、さらに農家生活の改善、合理化の方向を展覧するなど知識の啓蒙に努めた。

徳島県においては昭和26年から35年までの10年間に33年を除いて毎年これを実施している。参観デーあるいは産業祭と呼んだこともあったがその内容は同じで、農事試験場の主催か農業改良課との共催で開かれ、これに計上された予算は10万円以内の年が多かった。開催期日は表にまとめたように農繁期前、水稲が見頃の10月8～10日頃に行われた年が多く、期間は3日であった。内容は年によってかなり違ったようであるが、下に記した昭和28年および31年の例に見るように、農業ばかりでなく畜産、林業などを含めた広い分野の農業技術の展示をはじめ、統計資料や生活改善展、優良農機具の実演、農機具、肥料、農薬、植木、苗木などの展

示即売、農産物品評会、畜産共進会さらに研究発表会やその道の著名人を招いての農業講演会が開かれた年もあった。時代を反映して 参観者は多く、少ない年でも1万9000人、多い年には5万5000人にも達している。

農 業 祭 の 内 容		農業祭開催年次・その他	
昭和28年度:10月8～11日	昭和31年度:10月6～8日	開催年次(月・日)	参観人員(人)
1.稲作館	1.農業関係諸資料の展示	昭和26年度 (10月8～10日)	20,000
2.麦作館	2.農業相談所開設	昭和27年度 (10月8～10日)	30,000
3.畑作館	3.優良農機具実演展示即売	昭和28年度 (10月8～11日)	35,000
4.園芸館	4.農業展示	昭和29年度 (10月8～10日)	20,000
5.新農業展示館	5.生活改善展示	昭和30年度 (10月8～10日)	41,000
6.肥料展示館	6.農産加工品展示	昭和31年度 (10月6～8日)	50,000
7.農業映画館	7.農村工業副業展	昭和33年度 (10月8～10日)	55,000
8.生花展示館	8.林業展示	昭和34年度 (10月8～10日)	19,000
9.農業改良生活改善館	9.水産開拓林業統計展	昭和35年度 (10月4～6日)	30,000
10.農産加工館	10.商工並計量展	昭和46年度 (10月6～8日)	12,258
11.農林統計展示館	11.蚕糸並畜産展		
12.全国優良農機具実演展示会	12.衛生展		
13.試験園場案内説明	13.土地改良展		
	14.電機器具展示即売		
	15.木炭品評会		
	16.生活衣改善コンクール		

この農業祭は昭和35年を最後に久しく開催されなかったが、46年に農業試験場が石井町に移転、改築整備されたのを記念して、同年10月6日の落成式に続いて8日までの3日間、“豊かな農業の創造”をテーマに10年ぶりに盛大に開催された。落成式の項でも述べたが、このときの農業祭は激動する農業事情に対応し、農家自らが将来の営農の方向を考え、技術、経営の高度化、近代化を促進することを目指したもので、地域開発と主産地形成、生産と生活の調和、農業経営技術の革新方向の三つを柱に、模型、写真、図表などを使ってわかりやすく紹介された。会場には新県総の大規模開発プロジェクトの一つであった阿讃山系の大型生鮮食料基地構想など本県農業の未来像がパノラマや模型で展示され、つめかけた。参観者の関心を集めた。また新しい住宅環境や合理的な作業衣、スタミナ食の献立を紹介した生活改善展示物や電気器具展示場が主婦の人気を集めていた。このほか経営、技術、金融、生活、住宅などの各種相談所、それに県厚生農協連による健康相談、無料貧血検査も好評を得、水産加工品、漬物、乳製品などの即売場も賑わった。

年度	開催月日	主テーマ	備 考
47	9月27～29日	園芸機械展示実演会	主催＝県・農業機械化協会 (米・麦用、機械を除く) 協賛行事(園芸講演会) ・農業研究機関研究発表会 ・果菜類の育苗と栽培新技術
48	8月25～27日	農業機械展	主催＝県・農業機械化協会
49	8月23～25日	総合農業機械展示実演会	主催＝県・農業機械化協会 協賛行事(講演会) ・地力の現状と問題点 ・盆栽作りの要点と問題点 ・趣味の鉢物作り
50	8月23～25日	総合農業機械展	主催＝県・農業機械化協会 協賛行事 ・農業研究機関発表会
52	11月4日	土づくり機械実演研究会	主催＝県・農業機械化協会
53	9月20日	転作大豆機械化実演展示会	主催＝県・農業機械化協会
55	11月11日	野菜植付機械化実演会並びに野菜関連機械展示会	

農事試験場での農業祭はその後今日まで開催されていないが、県と農業機械化協会主催による農業機械の実演、展示会は表にとりまとめたように、47年以降も51年と54年を除いて55年まで毎年開かれている。ただ、昭和52年以降は一般的な機械展はとりやめ、そのときどきの重要課題をテーマとした展示会に かわり、販売展示もそれに係わる機械のみとしている。なお56年以降は会場を畜産試験場や農業大学校に移して実施されている。

3. 学位および表彰

(1) 学位(農学博士)

小林 尚 昭和36年11月25日 九州大学
論文:ニカメイチュウ防除の殺虫剤散布がウンカ・ヨコバイ類の生息密度に及ぼす影響に関する研究

石井 博 昭和37年3月31日 京都大学
論文:ムギ類赤かび病の流行機構に関する研究

山本 勉 昭和49年4月26日 九州大学
論文:キュウリ緑斑モザイク病に関する研究—とくに発生環境、伝搬方法ならびに防除法について

(2) 表彰

① 農業技術功労賞
桑野正信 昭和47年12月6日
多年にわたって麦の品種改良に精励し裸麦の優良品種ユウナギハダカを育成して麦作の改良と生産の振興に多大の貢献をなした功績

山本 勉 昭和58年12月2日
多年にわたり野菜の病害防除に関する研究に従事し、キュウリ緑斑モザイク病の原因を究明して野菜の生産と安定の向上に多大の貢献をなした功績

② 全国農業試験場長会表彰
黒島忠司 昭和57年5月26日
畜産廃棄物の有効利用のすぐれた業績により農業技術の振興につくした功績

③ 日本植物病理学会学術奨励賞
福西 務 昭和52年4月5日
ナス黒枯病、イチゴ炭そ病、エンドウすそ枯症状、サツマイモかいよう病、ニンニク葉枯病など野菜生産地における重要病害について病原菌の確定発生生態並びに防除法について広汎な研究を行い学術上並びに農業生産の増大に寄与した功績と今後の発展への期待

④ 知事表彰
〈個人表彰〉
佐藤靖臣 昭和29年12月13日
蔬菜園芸技術の研鑽を重ね本県の風土に適する新品種の育成に成功してその普及を図ると共に蔬菜の採種栽培法を確立してその指導に当る等本県農業の振興に寄与した功労

石井 博 昭和31年12月28日
麦類赤かび病の流行機構を究明し、発生予察並びに防除法を確立する外農作物病害の防除法の研究、防除剤の発見など本県農業の振興に多大の成果を収めた功労

小林 尚 昭和38年12月28日
農作物に発生する病害虫の生態をよく究明しその防除法の試験研究に専念して適切な防除薬剤及び防除法を考案する等本県農業の振興に寄与した功績

山本 勉 昭和42年12月28日
優秀な技術をもって農作物における病害の生態究明に精励し特に施設園芸の病害に関する研究において優れた防除技術を確立し、もって農業技術の改良進歩に寄与した功績

住友昭利 昭和55年12月27日
高度な技術と豊富な経験を生かし花き栽培技術の改善及び品種の改良に努め本県園芸の振興に寄与した功労

〈グループ表彰〉
徳島県立農事試験場大山果樹試験地職員一同
(下桶草、手塚学、多田良行、阿部元七、村上信太郎) 昭和24年11月1日

職員一同一致団結し果樹園の開墾整備に献身的努力を傾けたみるべき業績
土成施設園芸集中管理モデル団地育成グループ
(農業試験場関係者 山本勉、阿部泰典) 昭和50年12月27日

関係職員一同よく一致団結して土成町に近代園芸団地の設置を推進し施設園芸の集中管理による高度な技術と経営方式を確立するなど地域農業の振興に寄与した功労

農業試験場管理係職員一同 (森良英、大楠明、大石宏、福田英治、元木康博、栗飯原理代、石井鋭一、武知宏、川島正義、鎌田茂、芝原弘、久米彰一) 昭和58年12月28日

職員一同一致協力し常に労を惜しまずほ場整備・土壌改良などの業務に精励し試験研究の円滑な推進に寄与した功労

⑤ 功労賞(県知事)
野口利晴 昭和27年3月31日
勤務成績特に優秀